

水稻生育情報 (No.2)

令和4年6月10日
茨城県県西農林事務所経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)

【生育概況】

本年5月から6月第1半旬までの気象は、日平均気温が平年より0.9℃低く、降水量は平年比151%、日照時間は平年比106%でした。

管内の水稻定点調査における6月9日現在の「コシヒカリ」生育状況は、草丈はやや短い～極短く、茎数は平年並み～少なく、葉色はやや淡い～極淡くなっています。

生育は遅れていますが、中干し適期に入っています。

表1 水稻定点調査結果(6月9日現在:コシヒカリ)

調査地点	田植日 (月日)	植付株数 (株/坪)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (葉色板) (SPAD値)	
筑西市	5月5日	61	37	344	3.7	35.8
一本松	(5月3日)	(51)	(40)	(426)	(4.7)	(41.3)
下妻市	4月30日	48	35	372	4.6	39.9
加養	(5月1日)	(47)	(44)	(474)	(4.9)	(42.3)
桜川市	5月4日	51	33	341	4.3	38.8
真壁町飯塚	(5月5日)	(52)	(38)	(361)	(4.7)	(40.8)

※()内は平成29～令和3年の5カ年平均値

【これからの栽培管理のポイント】

●中干しについて

5月上旬までに植えた水稻は、既に中干し時期です。(目安:コシヒカリで茎数330本/m²)。分けつ盛期になると茎数は急激に増えるため、中干しの適期を逃さないようにしましょう(※詳細はR4水稻生育情報No1参照)。

●イネ縞葉枯病について

県西地域では、イネ縞葉枯病の発生が問題となっています。この病気はヒメトビウンカが媒介するウイルス病で、発病した後の治療法はありません。

ウンカは6月上中旬頃から水田に飛来しますが、ウイルスを保毒したウンカがイネを吸汁することで病気に感染します。また、保毒していないウンカが感染したイネを吸汁することで新たにウイルスを保毒し、この繰り返して被害が拡大します。

感染すると葉が縞状に黄色くなり、分けつ期には葉先がこより状に垂れ下がり枯死するか(写真1)、枯死しなかった茎でも正常に出穂しなかったり不稔となるため減収します。



写真1 イネ縞葉枯病の症状

(防除対策)

県病害虫防除所から5月27日付で注意報が発表され、県西地域で本病の発生が多くなることが予想されます。育苗箱施薬と併せて、本田防除を行いましょ。本年のヒメトビウンカの発生時期は「平年並み」で、本田での予測防除適期は下館地点で6月15～22日、下妻地点で6月14～21日となっています。

(参考) 茨城県病害虫防除所 HP: <https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/index.html>